

史跡毛利氏城跡（郡山城跡）保存活用計画（案）の概要について

【計画期間】10年
(令和3年(2021)～令和13年(2031))

沿革と目的（第1章）

昭和63年3月に「史跡毛利氏城跡（郡山城跡・多治比猿掛城跡）保存管理計画策定報告書」を策定し、30年経過しました。

その間、特に郡山城跡において未曾有の豪雨災害による被害を受け、今後も災害の危険性があること、園路・登山道（登城路）の破損が顕著となっていることなど、早急に計画を策定することが求められています。郡山城跡の保存状態や管理状況の現状と、次世代への継承に向けて直面する課題を整理し、実施計画を定め、中・長期的な観点からの取組を進めるための方法を示す保存活用計画を策定します。

史跡を取り巻く環境（第2章）

史跡の概要（第3章）

史跡の本質的価値（第4章）

史跡郡山城跡の本質的価値とは何かを明確に認識するため、総括的に再整理・再確認し明示します。

再整理・再確認

<郡山城跡の本質的価値の総括的な明示>

**保存状態がよく、戦国大名の発展段階がたどれる大規模な山城跡
城の営みや一生が遺構、遺物と史料でたどれる希少な山城跡**

本質的価値

- 毛利氏が中国一円を治める戦国大名に成長する拠点、その城の在り方を示す山城跡
- 郡山全域にわたって数多くの遺構（郭等）が良好に保存されている大規模な山城跡
- 戦国大名の山上居住等の同時代の資料が多数存在し、古文書の内容が現地で確認できる希少な山城跡
- 寺跡や毛利一族墓所等が一体となって存在する山城跡

新たな価値評価

- 山麓部付近まで郭が配された求心的・階層的な構造の山城跡
- 城の一生（築城、拡張、破城）を現地でたどることのできる山城跡
- 古文書調査が進み、より一層、その内容が現地で確認できる可能性の高い山城跡
- 幕末における城郭の再利用の動きや激動の歴史をうかがい知ることのできる山城跡

史跡の現状・課題（第5章：要点）

【保存（保存管理）の現状・課題】

- 「森林（樹林）や樹木の管理」の必要性
- 「破城の歴史を伝える石材や礎石、その他の地上遺構の保存」の必要性
- 「鳥獣（地表面の掘削や裸地化等）・害虫被害への対策」の必要性
- 「登山道・遊歩道の整備と維持管理」の必要性

【活用の現状・課題】

- 「郡山城跡をはじめとした文化財や歴史文化の啓発及びPR・情報発信」の必要性
- 「文化財や歴史文化を活かした社会教育・学校教育の充実」の検討
- 「文化財や歴史文化を活かした観光・交流の展開」の検討

【整備の現状・課題】

主として史跡の保存のための整備の課題

- 「郡山の地形の保全と防災対策」の必要性
- 「森林（樹林）や樹木の管理」の必要性
- 「鳥獣被害対策」の必要性
- 「（保存）施設の整備・更新」の必要性
- 「管理運営のための施設の整備」の検討

主として史跡の活用のための整備の課題

- 「アクセスや駐車場の整備・充実」検討
- 「登山道・遊歩道をはじめとした歩行者動線の整備・修繕」の検討
- 「史跡周辺を含めた周遊ルートの設定と案内表示板の整備・充実」の検討

【運営体制の整備の現状・課題】

- 「関係権利者、市民・地域活動団体の協力や参加、協働の取組の展開」の必要性
- 「市内外の人々・団体とのネットワークづくり」の必要性
- 「市民等への情報提供（共有化）・発信の体制づくり」の必要性

史跡の保存・活用の基本理念と方針（第6章：要点）

【史跡の保存・活用の基本理念（目標）】

**毛利氏の歴史文化を今に伝える
郡山城跡の価値と特色を
市民・地域の支えで永く守り、活かす**

【保存（保存管理）の基本方針】

- 調査・研究の継続実施
- 保存管理

【活用の基本方針】

- 啓発及びPR・情報発信
- 教育及び観光、地域活性化の資源としての活用

【整備の基本方針】

- 史跡保存のための整備
- 史跡活用のための整備

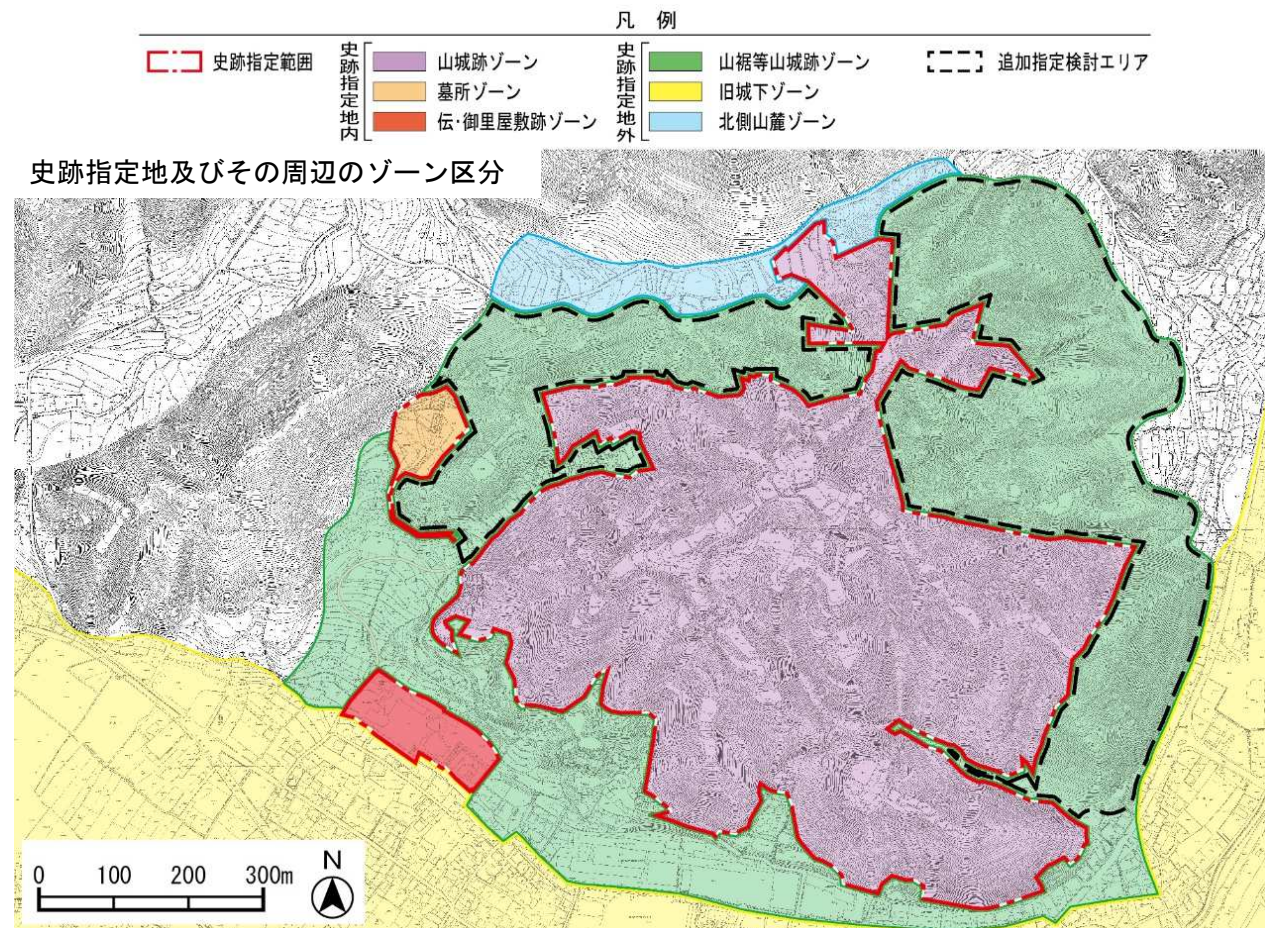
【運営・体制の整備の基本方針】

- 郡山城跡の価値や史跡の運営・体制の現状及び課題を踏まえるとともに、基本理念（目標）を考へ方の根本に据え、史跡の運営・体制の整備の基本方針を定めます。



史跡の保存（第7章）

郡山城跡を中心に文化財の保存や景観の保全・形成の方向性や内容を、それぞれの特性に応じた区域（ゾーン）を設定し、場所に即して検討していきます。



史跡の活用（第8章）

【活用の方向性】

文化財を通じた郷土愛や地域への愛着の醸成、文化財の保存・活用へのきっかけづくりに向け、市民や地域活動団体と連携し、郡山城跡の本質的価値を構成する要素をはじめとした文化財、それらを取り巻く自然環境や景観を、体験し、学ぶことができるよう、場や機会の確保・充実に取り組みます。

史跡の整備（第9章：要点）

【整備の方向性】

郡山城跡の価値と特色を市内外の人々、そして多様な世代が体験し、学ぶことができるよう、国・県と連携・調整し、史跡の本質的価値を保存するための整備、及び史跡の活用につながる整備に取り組みます。

- 本質的価値を構成する要素の保存・整備（史跡指定地）
- 本質的価値を構成する要素の保存・整備（史跡指定地外）
- 本質的価値と一体的に又は関連して歴史的環境を構成する要素の保存・整備
- 【史跡指定地】 ○ 保存施設（説明板ほか）の整備
- 【史跡指定地内外】 ○ 森林の保全・管理と安全・防災対策

運営・体制の整備（第10章：要点）

史跡の確実な保存及び適切な活用のため、史跡の管理を中心的に担う安芸高田市が先導し、土地所有者、市民・地域活動団体が連携する運営・体制の充実・強化を図ります。

施策の実施計画の策定・実施（第11章：要点）

※黒の実線：実施又は実施予定

灰色の実線：維持管理や取組の態勢確保（例：調査の体制確保、現状変更への対応）

破線：実施の可能性、取組の有無を今後検討、積み残した場合の取組

区分・施策			短期：5か年（2021～2025年度）	中期：5か年（2026～2030年度）	
史跡の保存 (保存管理)	日常的・定期的な維持管理や点検への対応				
	現状変更への対応				
史跡の活用	ガイダンス機能の整備 ※整備と一体的な取組		<ul style="list-style-type: none"> ・安芸高田市歴史民俗博物館の充実・強化 ・道の駅での情報提供機能の充実 ・多目的な歴史広場（説明板等によるガイダンス機能の確保） 	<ul style="list-style-type: none"> ・その他公共施設での情報提供、パンフレット作成、ガイド養成 	
	史跡の整備	主として保存のための整備	遺構の保存整備	<ul style="list-style-type: none"> 本質的価値を構成する要素の保存・整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理、き損した場合の復旧・修理への対応
環境整備（保存）			<ul style="list-style-type: none"> 歴史的環境を構成する要素の保存整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理 	
主として活用にかかわる整備		環境整備（活用）	園路の整備（遺構のき損防止）	<ul style="list-style-type: none"> ・二の丸、厩の壇：盛土・階段等の整備 	<ul style="list-style-type: none"> ・その他の郭（特に切岸）のき損防止
			鳥獣被害防止対策	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥獣被害への対応（必要に応じて復旧） 	<ul style="list-style-type: none"> 同左 ・鳥獣被害防止対策の検討
主として活用にかかわる整備	環境整備（活用）	園路の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・満願寺の蓮池、石列の露出展示（保存対策）、維持管理 	<ul style="list-style-type: none"> ・蓮池、石列の維持管理 ・礎石（建物跡）、その他の露出展示の検討 	
		園路の整備	<ul style="list-style-type: none"> ・遺構のき損防止：二の丸、厩の壇、難波谷～尾崎丸 ・園路の維持管理（樹林整備を含む）、き損箇所の復旧 	<ul style="list-style-type: none"> その他の箇所・ルート ・馬場、妙玖庵跡等へのアクセスの検討 	
	案内表示板の維持管理と整備	<ul style="list-style-type: none"> ・案内板、説明板、誘導標式の維持管理、修繕・更新 	<ul style="list-style-type: none"> ・維持管理、修繕・更新 ・馬場、妙玖庵跡へのアクセスの確保と合わせた説明板の整備の検討 		
整体運営体制の	文化財の保存・活用に向けた地域総がかりの体制づくり		<ul style="list-style-type: none"> ・体制づくり（活動展開） 	<ul style="list-style-type: none"> ・体制（活動）の充実 	

経過観察（第12章）

施策・事業の定期的な経過観察を行なうことにより、基本理念に立ち返り、現況を把握・分析し、問題点を改善していきます。